

2023年12月理事会議事録

日 時：2023年12月23日（土）14：00～18：00

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出席：辻 秀人・大竹幸恵・佐藤宏之・足立佳代・足立拓朗・岩本 崇・亀田直美・黒沢 浩・小菅将夫・澤田秀実・高倉 純・田尻義了・谷口 榮・谷畑美帆・野口 淳・肥後弘幸・日高 慎・藤沢 敦・藤野次史・水本和美・溝口孝司・山崎和巳、監事：都築恵美子・萩野谷 悟、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

欠席：大坪志子・岡林孝作

進行：藤沢 敦

議長：辻 秀人

藤沢理事から、本日の出席者は24名（うち理事22名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

小菅理事から、鹿児島県の雨宮瑞生会員が2023年9月1日、北海道の佐藤一夫会員が9月13日、宮城県の高橋多吉会員が10月15日、山梨県の山下孝司会員が10月25日に亡くなったとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第745号 退会会員の承認について

小菅理事から、北海道の*会員、千葉県の*会員、山梨県の*会員、鳥取県の*会員、沖縄県の*会員から2023年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

また、賛助会員では学生会員の北川咲子会員から2023年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

議案第746号 2024年度日本考古学協会名誉会員の推薦について

大竹副会長から、12月16日（土）に名誉会員選考委員会を開催し、「名誉会員に関する規定・内規」に照らして、在籍50年以上で委員（現在の理事に相当）及び理事を歴任し、会長及び副会長も務められた高倉洋彰会員を名誉会員に推薦するとの説明があり、審議の結果原案通り承認され、総会に諮ることとなった。

議案第747号 「日本考古学協会公開シンポジウム」の開催について

田尻理事から、一般の方に向けた協会主催の公開シンポジウム「考古学研究が語る歴史」の企画について提案があり、「考古学が邪馬台国の時代を解明する（仮題）」をテーマとすること、発表予定者や各発表テーマ、予算案等概要について説明があった。続けて辻会長から、昨今の一般からの考古学に対する関心が薄れている状況を鑑みて、最新の考古学の研究成果を広く示す必要があるという趣旨の企画であるとの補足説明があり、具体的な開催時期やテーマなどについて意見が出された。審議の結果、実施については承認された。

が、具体的な要項を作成し、改めて次回の理事会に諮ることとした。

議案第748号 考古学研究会との連携事業の実施について

亀田理事より、考古学研究会との大学向けアンケートに関する連携について、研究環境検討委員会でアンケートの実施計画を協議し、①対象は国内で考古学に関する科目を有する大学研究室の教員である。②実施方法はメールによる依頼・回答の回収を行う。③実施後は回答の集計・分析を研究環境検討委員会と考古学研究会で分担して行い、意見交換会の実施を経て解析結果を総大会のポスターセッションなどで報告することが説明された。審議の結果、アンケートの実施については承認されたが、他学会との連携事業であるため、結果の分析と報告の分担、総括の方法についてより明確に整理が必要であることが求められ、アンケート項目案も含めて継続審議となった。

議案第749号 協会ホームページリニューアル事業について

大竹副会長から、10月理事会報告第961号にて報告された協会の公式WEBサイトリニューアル事業について、2023年度に実施が計画されていた構成・デザイン等の改訂を延期し、新システムの導入事業と併せて2024年度に一元化して実施することが説明され、事業の実施方法及び期間について原案通り承認された。

議案第750号 2024年度新入賛助会員の承認について

藤野理事から2024年度新入賛助会員の申込は、フレンドシップ会員1名、学生会員5名の申込総数6名であるとの説明があった。審議の結果、全申込者について入会資格が承認され、総会に諮ることとなった。

議案第751号 理事選挙制度検討小委員会の委員の選任について

小菅理事から、唐澤至朗委員長・長瀬衛委員が任期満了により退任することから選挙制度改革小委員会規定第4条に基づき、新たに神奈川県橋本裕行会員を選任したいとの説明があり、原案通り承認された。

報告第962号 2024年度第1回理事選挙管理委員会の報告

藤野理事より、11月4日（土）に第1回理事選挙管理委員会を開催し、①委員長に群馬県の志村哲会員、副委員長に埼玉県西井幸雄会員が選出され、今後の選挙日程の確認を行った。②選挙告示について内容を協議した。③立候補・候補者推薦のチラシ、及び投票呼びかけの広報チラシを作成することとした。④開票作業の進め方について確認するため、第2回委員会は委員全体で行うことが説明され、了承された。

報告第963号 2024年度第1回入会資格審査委員会の報告

谷畑理事から、12月9日（土）に第1回入会資格審査委員会を開催し、①委員長に神奈川県田尾誠敏会員、副委員長に東京都の追川吉生会員が選出され、2024年度新入正会員の資格審査、及び賛助会員の予備審査を行った。②正会員については、審査の結果、申込総数50名のうち、資格基準を満たす者44名、保留3名、提出業績が資格基準に該当しない

者3名と判断された。③賛助会員については、フレンドシップ会員1名、学生会員5名の申込総数6名であり、特に問題なく、理事会に報告することとした。③保留の正会員申込3名については、2024年1月9日締切で追加業績や執筆証明書等を求め、第2回入会資格審査委員会で審議する旨の報告があり、了承された。

報告第964号 賛助会員2023年度見学会の報告

大竹副会長から、11月19日（土）に賛助会員の見学会「飛鳥を歩く」を、岡林理事を講師に明日香村教育委員会の協力も得て賛助会員8名及び関係者を含む計19名で実施し、8箇所を見学して参加者アンケートでも好評を得たとの報告があり、了承された。

報告第965号 2023年度宮城大会の総括と課題などについて

藤沢理事から、①2023年度宮城大会の総括があり、全体として盛会であり、対面参加が増加した一方でオンライン参加が減少した。②大会資料集についてはほぼ完売した。③図書交換会は規模を縮小したもののコロナ禍で中止とした以降久方ぶりに実施できたことが報告された。

次に、藤沢理事・社会長から、第1分科会において、一部会員間で白熱した議論があり、このことについて、後日当該会員から協会宛に対応が求められた。会長・副会長及び、実行委員会で当日の録画映像を確認し、対応について協議した。その結果問題とすべき事実は確認できなかったため、その旨を記した文書を当該会員宛に送付したことが報告され、文書は理事会としての総意であることが了承された。

報告第966号 2024年度第90回（千葉大学）総会の計画について

黒沢理事から、12月14日（木）に企画担当理事及び第90回総会実行委員会である千葉大学の阿部昭典教授とオンラインで打合せを行い、発表本数について、口頭発表26件、ポスターセッション28件、セッション7件、高校生ポスターセッション16件としたことが報告された。続けて田尻理事から、今後の総大会の開催地について現状の予定が報告され、了承された。

次に、大竹副会長から、総会の開催を広報するポスターの作成について企画担当に検討が求められ、作成について了承された。

報告第967号 カフェde考古学第5回「みんなで巡る旧石器時代全国遺跡ツアー」の報告

足立佳代理事から、カフェde考古学第5回を12月9日（土）に岩宿博物館を配信のキーテーションとして、旧石器時代を扱う全国6カ所の博物館を繋いで開催し、関係者を含め76名の参加を得たとの報告があった。当日は小テーマごとに各博物館10分で資料提示や実際に館内をライブ中継するなど工夫して行い、アンケートも非常に好意的なもので、オンラインの特性を活かして各地を結ぶ方法は今後のカフェde考古学の新しい方法として有効ではないかとの説明があり、了承された。

報告第968号 アウトリーチワーキンググループの報告

大竹副会長から、12月11日（月）にアウトリーチ・ワーキンググループの会議が行われ、

新年度のカフェ de 考古学の開催方針について協議したことが報告された。①協会のアウトリーチ事業として内外の評価が高いこともあり、継続が望まれる。②ワーキンググループについては、今期で理事任期が終了するメンバーもいるため、任期やその位置づけの見直しが必要である。③カフェde 考古学の開催日程は年6回・隔月第2土曜日を基本とすることが報告され、次年度の発表者及び主催委員会の構成素案が提示された。それぞれのテーマや内容、日程希望については、2月初旬までに広報委員会への連絡が求められた。

報告第969号 奈良大学訪問と協会寄贈図書に関わる打ち合わせ等の報告

足立佳代理事から、11月20日（火）に協会寄贈図書を受け入れている奈良大学へ辻会長・大竹副会長・広報委員会足立佳代理事・山崎常務理事が訪問し、①学長から専門分野の図書利用者数は多く、今後とも協会寄贈図書の継続的活用をより拡充していきたいとの意向が示された。②奈良大学図書館内を見学し、協会専用収蔵室等を確認した。③図書の送付回数について、今後新型コロナウイルス感染症の影響が減少し、総会・大会での図書交換会が再開されることで寄贈量の増加が見込まれることから、数回に分けて発送することが報告され、了承された。

報告第970号 名義使用の後援依頼に関わる承認について

山崎事務局長から、島根大学法文学部山陰研究センターから「戦争遺跡の保存と活用ー文化資源としての戦争遺跡を考えるー」についての後援（名義）依頼があり、名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

報告第971号 各委員会における2023年度会議等報告について（その5）

1 広報委員会の報告

大竹副会長から、11月15日（水）に委員会をオンラインで開催し、公式WEBサイトにおけるセキュリティの脆弱性について早急に改修する必要があり、改修費用を確認したことが報告された。続けて、近年歴史系の著名なサイトがサイバー攻撃の窓口として利用される傾向が認められ、本協会では公式サイトWEBサイトを通じて総大会のオンライン申込やカフェde考古学の申込を受けていることから、個人情報の流出を防止するためにも、今年度中にセキュリティの強化を図るべきである旨の説明があり、改修を行うための経費の算出については財務担当理事が執行状況を整理した上で実施することで了承された。

2 国際交流委員会の報告

足立拓朗理事から、国際交流委員会の今年度の活動として、例年通り「発掘された日本列島2023 調査研究最前線」の図録に掲載された情報を英語・中国語・韓国語に翻訳して公式サイトに掲載する事業のため準備を進めているが、今年度は開催時期が秋と例年より遅かったため掲載も遅れている。現在の準備状況から、2月末を目処として関係する予算執行を行う予定である旨の報告があり、了承された。

3 研究環境検討委員会の報告

亀田理事から、11月24日（金）に委員会をオンラインで開催し、①「アイヌ民族に関わ

る研究倫理指針」がアイヌラウンドテーブルで承認されたことを受け、研究倫理部会の矢島國雄部会長が、1月20日（土）に予定されている北海道アイヌ協会主催（4学協会共催）のシンポジウムに登壇する。②考古学研究会との大学向けアンケートに関する連携について協議した。③総大会ポスターセッション等の来年度の活動計画及び予算について検討した。④委員改選に伴う委員会体制を検討したとの報告があり、了承された。

4 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

藤野理事から、11月11日（土）に幹事会を対面とオンラインのハイブリッド方式で開催し、①港区高輪築堤跡について、羽田アクセス線に関わる試掘調査が継続されており、日本イコモスとの連携を図るためその動向について情報収集を行う。②埼玉県北本市デーノタメ遺跡について、区画整理や都市計画道路変更調査設計及び史跡指定予定地について市議会で承認された。③南あわじ市門崎砲台跡について、砲台跡の一部移築が議会で決定されたものの現地保存は叶わなかった。④広島市広島城跡について要望書への回答があった。⑤出雲市大社基地跡について、要望書への回答があった。⑥水俣市百間排水溝及び樋門について、現地の動向が報告され、引き続き注視し、情報収集を図る。⑦2024-2025年度埋文委委員の選任について、小笠原事務長より各地域連絡会で各委員のとりまとめについて求められたことが報告され、了承された。港区高輪築堤跡については、溝口理事から日本イコモスの状況についての説明があり、今後の連携について検討することとなった。

5 社会科・歴史教科書等検討委員会の報告

小菅理事から、11月26日（日）に委員会をオンラインで開催し、①第5回カフェde考古学の実施内容について協議した。②2024年度の小学校歴史教科書における「旧石器時代」の記述の復活に関する他学会との連携については、総大会のポスターセッションやカフェde考古学を通じて行う予定である。③2023年度宮城大会のポスターセッションについて参加委員からの報告を受け改善点を検討した。④来年度予算について検討した。⑤委員の任期満了に伴う新体制について協議したとの報告があり、了承された。

6 陵墓の報告

日高理事から、陵墓に関する宮城大会以後の活動について報告があり、①立会調査見学が11月30日（木）に奈良市の念仏寺山古墳（開化天皇春日率川坂上陵）で実施され、11学協会15名が参加した。②今年度の立入り観察について調整中であるとの報告があり、了承された。

7 アーカイブス小委員会の報告

足立佳代理事から、11月22日（水）に小委員会を開催し、①会報・彙報No.1～No.199（1953年～2020年）、『日本考古学年報』1号～70号（1948年度版～2017年度版）、機関誌『日本考古学』第25号～50号（2007年～2020年）、総会研究発表要旨（1948年～2017年）、大会研究発表要旨（1961年度大会～2020年度大会）のスキヤニングによるPDF化については、長瀬衛委員から本年度をもって完了した旨の報告を受けた。②特別委員会・小委員会に関する追加項目として、協会図書に係る特別委員会の資料整理、小委員会関係の「データベ

ース作成委員会資料」「法人化資料」「陵墓関係資料」の資料整理についてデータ入力
が終了した。③科学研究費事業については、「考古学年報」「日本考古学」「データベース」
の関係資料整理について、データ入力が終了した。④今後の事業計画として、2019年に設
置された本委員会の設置期限が近付いていることから、新たな小委員会の設置等を含め円
滑な引継ぎができるよう事業計画を検討する必要があるとの報告があり、了承された。

その他

1 2024年度の各委員会等における予算要求書の提出について

肥後理事から、来年度の予算作成の日程について説明があり、各理事に期日までの予算
要求書の提出が求められた。続けて谷口理事から、予算執行が伴う事業については今年度
の執行状況を精査した上で予算編成するため、各担当理事に適正な執行が求められた。

2 第14回日本考古学協会賞の応募状況について

佐藤副会長から、11月30日（木）に応募の締切を迎えた日本考古学協会賞について6
件の応募があり、3月に日本考古学協会賞選考委員会を開催する旨の説明があった。また、
9月理事会議案第739号にて協会賞規定の一部を改訂することが承認されたが、2024年
6月1日からの施行であることが確認された。

3 会員の訃報関係について

山崎常務理事から、9月理事会に逝去として報告した岩手県の吉田義昭会員について、
逝去が誤報であった旨が報告された。

以 上